

社会イノベーターコース

様々な場面において、行政にも企業にも対処が難しい社会課題が顕在化し、人間のwell beingを向上させる、持続可能であり、実効性の高い社会システムの設計や実践モデルの構築が喫緊の課題となっています。しかし、このような社会課題の解決には、「個益（＝個人や特定の組織の利益）」と「公益」が相反するものにとらえるアプローチでは隘路にはまってしまう。そこで、本コースでは、社会イノベーターを「事業センスと公益センスを兼ね備え、持続性のある、かつ、生産性の高い社会を実現する人」と定義し、多様な主体との協働を実現し、効果的なインセンティブ設計のできる高度なマネジメント能力をもった人材を育成することを目指しています。

コースの特色としては、①ビジネス・環境・社会起業を融合する知識・技能の学習とプロジェクト実践の体系的なカリキュラム、②研究プロジェクト実践によるアントレプレナーシップの醸成、③コースワーク（コース指定科目）による集中学習や遠隔対応科目の活用などがあげられます。また、各地の自治体・企業・団体と連携し、地方創生や地域おこしのプロジェクトを実践することにも取り組みます。

社会イノベーターは、アントレプレナーシップを発揮して社会の問題解決を担う主体であり、個人、非営利組織、自治体、企業など、その所属は様々です。このような人材が雲霞の如く群がり出ることによって社会は変わると信じています。

関連アカデミックプロジェクト： ■ ネットワークコミュニティ1/2 ■ プラットフォームとイノベーション

担当者：飯盛 義徳、一ノ瀬 友博、巖 網林、國領 二郎、◎鈴木 寛、神成 淳司、玉村 雅敏、東海林 祐子、宮垣 元
プロジェクト参加教員（他学部・他研究科所属教員、非常勤教員等）：

井上 英之、山崎 亮、宮川 祥子、村林 裕、佐久間 信哉、伊藤 健、国保 祥子、安井 秀行、山田 貴子、坂倉 杏介、大西 健丞、今村 亮、木幡 敬史、松橋 崇史、岩月 基洋ほか

キャリア・資格等：本コース修了者は、企業・自治体等において経営企画や事業開発・政策調整、社会貢献・CSR・CSV、環境マネジメント等のリーダーや、営利・非営利組織の起業家や戦略スタッフとして、社会を先導することが期待されます。

サティフィケート修得要件： サティフィケート名称「社会イノベーター(Social Innovator)」

以下の「SI コース科目区分」のうち、「共通科目」と「スキル科目」から14単位以上、「プロジェクト科目」(※2)から4単位以上、「研究指導科目」(※3)から4単位以上、「修士プロジェクト」2単位(※4)を取得し、修士（政策・メディア）を取得すること。

(SI コース科目区分)	(科目名)	(履修区分)	(単位数)
共通科目	個益公益のデザイン1	必修	2
	個益公益のデザイン2	必修	2
	社会起業とイノベーション	必修	2
	ソーシャルファイナンス	必修	2
	社会イノベーションとデザイン	必修(※1)	2
	ソーシャルビジネスの商品開発とプロモーション	選択必修	2
	ソーシャルマーケティング	選択必修	2
	パブリックマネジメント	選択必修	2
	社会起業論	選択必修	2
スキル科目	フィールドワークA/B/C/D	選択必修	各2
	概念構築(リサーチデザイン)	選択必修	2
知識科目	経営戦略特論	選択	2
	ベンチャー経営論	選択	2
	ソーシャルビジネスと評価	選択	2
	低炭素社会設計論	選択	2
	先端研究(ケースメソッド)	選択	2
専門科目	地域情報化論	選択	2
	ファミリービジネス論	選択	2
	ポリシーマネジメント(政策形成とソーシャルイノベーション)	選択	2
	環境ビジネスデザイン論	選択	2
	環境フィールドワーク	選択	2
	行政組織の経営	選択	2

プロジェクト科目	ネットワークコミュニティ1	毎学期 選択必修(※2)	各1
	ネットワークコミュニティ2		
	プラットフォームとイノベーション		
研究指導科目	修士研究会 (※3)	毎学期 選択	各2
修士プロジェクト	修士論文1	選択必修(※4)	1
	修士活動報告1		
	修士論文2	選択必修(※4)	1
	修士活動報告2 (※5)		

(※1) 2017年度入学者は「選択必修」

(※2) 毎学期、指定のアカデミックプロジェクトから選択必修(2つ履修することも可能)。2018年度以前は、プロジェクト科目「ネットワークコミュニティ」「プラットフォームとビジネス」を対象とする。

(※3) SIコース担当者が開講する「修士研究会」のみを対象とする。

(※4) 2017年度以前の入学者は「修士論文(2単位)」または、非修論オプションの「報告書」の主査が担当する「プロジェクト科目」を最終学期に履修することとし、その2単位をサティフィケートの要件として認定する。

(※5) SIコースで「修士活動報告2」を選択する学生は、SIコース指定のガイドラインを満たす資料を作成するものとする。

2017年度以前の入学者については「塾生の皆様へ」Webサイトの以下のページを確認すること。